

虚子記念文学館投句特選句・令和四年四月

稲畑廣太郎 選

館に逢ふ汀子師若し万愚節

大阪 徳岡美祢子

とこしへの句碑に初蝶来たりけり

神奈川 進藤剛至

落椿これからといふ地の余白

大阪 多田羅紀子

散りかねてゐる花に雨いたりけり

東京 荒川ともゑ

風を待ち風と戯れ山笑ふ

東京 崎川晶子

千曲川風と駆け抜く花菜道

埼玉 土井洋子

これほどの芦屋の花を見ずに逝き

兵庫 平田 恵

プリズムとなりたる花瓶ヒヤシンス

福岡 藏本 翔

俳小屋の書冊の山へ春の塵

滋賀 近江堇花

欠席の多き教室ヒヤシンス

兵庫 武田奈々

(青少年)

入選句・令和四年四月

| | | | | | |
|-----------------|----|-------|-----------------|----|-------|
| 哀しみを秘め紅き椿の門に立つ | 大阪 | 徳永由起子 | 蛤の美しき紋とは波のもの | 大阪 | 林 曜子 |
| 碑に花に尽きぬ思ひ出芦屋川 | 大阪 | 山田佳音 | 場所取りも片付けも僕花の宴 | 兵庫 | 塚本武州 |
| 桜舞ひをり始まりに旅立ちに | 兵庫 | 奥田好子 | 忘れものして花衣重くなり | 香川 | 葛原由起 |
| 胸のすく一事ありけり万愚節 | 兵庫 | 山本康子 | 春光や舞妓の帯のくがね色 | 兵庫 | 涌羅由美 |
| 田の溜り蝌蚪わいわいと水騒ぐ | 岡山 | 田口壽枝 | はまぐりの酒蒸し君と三十年 | 徳島 | 奥村 里 |
| 末黒野や生命の鼓動甦る | 大阪 | 河辺さち子 | 三回目接種終へたり日永かな | 大阪 | 八木 徹 |
| 頭高う腰低う都踊かな | 兵庫 | 槌橋眞美 | 灰色の空押し上げて桜東風 | 兵庫 | 山田佳乃 |
| 料峭や降るとも見えず昼の雨 | 兵庫 | 前田容宏 | 春雨にはらはらと散る花びらよ | 埼玉 | 木村友理枝 |
| 手に届き花に届かぬ恋心 | 兵庫 | 小林志乃 | なごりありこの汀子邸この花に | 兵庫 | 岩水ひとみ |
| ゆつたりと耕して田の土香る | 石川 | 辰巳昌彦 | 草萌ゆる真赤な汀子亡き庭も | 奈良 | 好川忠延 |
| 咲き満ちし花に面影いと寂し | 兵庫 | 岩鼻絹子 | 虚子館へ入る一步や椿落つ | 兵庫 | 藤井啓子 |
| 六甲山芦屋の街の遠霞 | 岡山 | 小幡恒雄 | 足音に寄り来バケツの中の蝌蚪 | 兵庫 | 高橋純子 |
| 花吹雪神の招きはかくあらん | 大阪 | 田邊育子 | 子の描く赤い花とはチューリップ | 大阪 | 山下幸典 |
| 今日だけは夢見てみたい万愚節 | 兵庫 | 玉手のり子 | 汀子師の写真頂く花の句座 | 兵庫 | 森岡喜恵子 |
| 藤棚のむらさき重き暮色かな | 大阪 | 石橋玲子 | 汀子師を旅して花の吉野まで | 兵庫 | 高野さち |
| 一陣の落花を追へる三輪車 | 兵庫 | 中井陽子 | 汀子師の逝ける大空花の道 | 大阪 | 谷本房子 |
| ふと風に聴く花の声師の響き | 兵庫 | 川村ひろみ | 春の野へ続く大玻璃開け放つ | 大阪 | 杉山千恵子 |
| 家事放棄あそびたくなる日永かな | 奈良 | 山口廣世 | 虚子館の中まで入りし花の塵 | 石川 | 辰巳葉流 |
| 虚子館の椿遺訓のごと拾ふ | 兵庫 | 小柴智子 | 客船の錨巻き上げ波止遅日 | 兵庫 | 西村みどり |
| 更衣戦力外となるエース | 三重 | 池本準一 | 師の二階仰ぎて揺るる竹の秋 | 兵庫 | 辻田あづき |
| 更衣風に明るさありにけり | 三重 | 松村咲子 | 湯煙に仰ぐ峡空春の星 | 兵庫 | 宮本露子 |
| 亀鳴くや空家となりし御向ひさん | 三重 | 福森志津子 | 汀子師の視線明かるき春の空 | 京都 | 宮本幸子 |
| 接木して空へ未来を語りかく | 兵庫 | 黒田千賀子 | 歌遺し風となる君桜舞ふ | 千葉 | 樽谷幸龍 |
| 日射しにも力のみえて夏近し | 大阪 | 窪田由紀子 | 冬便り乳房失くせし人からも | 大阪 | 濱崎妙子 |
| 汀子師の微笑み満ちる館の春 | 鳥取 | 前田 千 | 鳴門峡母への旅の幾時雨 | 大阪 | 山本慶代 |
| 夕おぼろ泊船の窓泊りそめ | 兵庫 | 上岡あきら | 夏の雨きいんと溶けずかげになる | 三重 | 水越晴子 |
| ヒヤシンスあをよりいでし濃紫 | 兵庫 | 武田優子 | 桜散る鳶は大きく舞ひにけり | 大阪 | 山田 天 |
| 師を偲ぶ心に添ひし花の雨 | 石川 | 赤島磨智子 | ひと粒に地球の未来種を蒔く | 兵庫 | 池田雅かず |

| | | | | | |
|-----------------|-----|------------|----------------|-----|-------|
| 鞆を跳びこの人と決めにけり | 兵庫 | 永沢達明 | 果てしなき菜の花をゆく霊柩車 | 和歌山 | 中島紀生 |
| 虚子館の花に心を置きしまま | 兵庫 | 和田華凜 | 麗かや廣田神社の親子句碑 | 兵庫 | 江川由美 |
| 公園の池を一周花の径 | 奈良 | 堀ノ内和夫 | 岩肌の浸みる水より春零る | 東京 | 宮村土々 |
| 春光や窓の外にも自室にも | 兵庫 | 山田将大 | 花冷えの業平橋に灯の灯る | 兵庫 | 阿曾宏之 |
| 手を繋ぎ桜のドームくぐりをり | 東京 | 藤下啓子 | 幸探す乙女心や昔蓍 | 奈良 | 河村久美子 |
| てふてふと句帳に書いて蝶を待つ | 兵庫 | 福岡笙子 | 汀子師を心に刻み花の旅 | 石川 | 村上秀吾 |
| ただ白したそがれどきの花の黙 | 兵庫 | 二瓶美奈子 | 肅肅と歩むこの道春ふかし | 兵庫 | 田村惠津子 |
| 睦まじく紅白の梅咲き揃ふ | 京都 | 東條まゆみ | 春惜む木漏れ日故師の笑顔とも | 石川 | 牧野妙子 |
| 寂光に佛の立つ紅牡丹 | 兵庫 | 英賀美千代 | 花冷を映す神鏡空清し | 兵庫 | 齊木富子 |
| あざやかな汀子師想ふ牡丹咲く | 兵庫 | 清瀬 環 | 古き文虚子の学帽風薫る | 兵庫 | 黒子薫風 |
| 春光の綺羅運びゆく芦屋川 | 兵庫 | 日下富貴子 | 若葉雨上がり明るき汀子晴 | 兵庫 | 内田康代 |
| 春燈の青と黄潤む東山 | 兵庫 | 岡元のり子 | 御遺影に何申さばや春は逝く | 兵庫 | 山之口倫子 |
| 不出来な子ほど愛しく葱坊主 | 兵庫 | 三木雅子 | 花水木日差しに透ける薄化粧 | 兵庫 | 伊集院秀樹 |
| 子の甘き息を包みて石鹼玉 | 兵庫 | 大西美知子 | 藤房の重く揺れたる雨の夜 | 大阪 | 新田佐代子 |
| 葱坊主犇めき合うて神の島 | 兵庫 | 入谷千恵子 | 眺望の大和平野は花の雲 | 大阪 | 立入宮子 |
| リラ冷えや一枚羽織る昼下り | 奈良 | 芳林淳子 | 雀の子籬の隙を行き交へり | 石川 | 堀口紀子 |
| るんると流れて割るる石鹼玉 | 兵庫 | 山岸正子 | 丹精を一夜にて消す根切虫 | 兵庫 | 山口弘子 |
| 早起きの夫しのびつつ朝寝かな | 兵庫 | 山崎渺美 | この空はウクライナまで仏生会 | 神奈川 | 平野孤舟 |
| 夜更かしの連れ添う声は春の蚊や | 兵庫 | 道中義臣 | | | |
| 何度でも挑戦するさ葱坊主 | 兵庫 | ほりもとちか | | | |
| 汀子師の着こなし習ひ更衣 | 兵庫 | 金田八江子 | | | |
| 花吹雪車両にひとひら迷ひ込み | 兵庫 | 高市敦之 | | | |
| 南座や桜ほころぶ雨の夜 | 兵庫 | キートスばんじょうし | | | |
| 薄桃の花舞ひ踊る浜の町 | 兵庫 | 永廣千瑛子 | | | |
| 岬鼻へ道はますぐや陽炎へる | 愛知 | 小野 薫 | | | |
| 山吹の路地の奥行けんけんぱ | 神奈川 | 小堀公美子 | | | |
| 古の湯に身を委ね春惜む | 兵庫 | 足立朱麻 | | | |
| 春秋や音信絶えし句輩 | 石川 | 伊東弥太郎 | | | |
| 朧なる沖の霧笛の消えにけり | 兵庫 | 太平楽太郎 | | | |